

わたし しゅっしん おおさか さかいし ゆうめい にんとくてんのうりょう ある きより きょうかしよ
私の出身は大阪の堺市です。有名な仁徳天皇陵は歩いていける距離にあり、教科書の

こうくうしゃしん かなら じっか うつ ひ こ はなし
航空写真には必ず実家も写っていることが、こちらへ引っ越してきてからちょっとした話

しんせき かんさい ねんまつねんし ころ きんじよ いとこ
のタネになっていました。親戚もほとんどが関西にいます。年末年始の頃には近所の従兄弟

いえ おおぜい ひと あつ とし こ なんねん まえ きょうと そぼ
の家に大勢の人が集まって年を越したものでした。また、何年か前に京都の祖母が

な とき そうぎ ぜんや しんせきいちどう さいじょう と ぜんいん そぼ いちや
亡くなった時には、葬儀前夜から親戚一同が斎場に泊まりこみ、全員で祖母と一夜を

す かな みおく けんぜん にぎ つつ いんしょうぶか おも で
過ごしました。悲しいはずの見送りが健全な賑やかさに包まれて、とても印象深い思い出で

いろいろ おつ おおさか ほう あし の にじゅうすうねん もよ
す。色々と落ち着いてから、大阪の方へも足を伸ばしました。二十数年ぶりに見る最寄りの

えきまえ きれい や がわ
駅前はとても綺麗になっていました。コロッケ屋のおばちゃんはいなくなり、ドブ川のように

きたな せんろ ぞ ようすいろ
に汚かった線路沿いの用水路にはフタがされていました。

いろいろ ある うらしまたろう むかしばなし おも だ おも で たまたまぼこ
色々と歩いてみながら、浦島太郎の昔話を思い出しました。思い出はきっと玉手箱のよ

しゅうい あたら じぶん ふる おも で なか いつづ
うなものです。周囲は新しくなっているのに自分は古い思い出の中に居続ける。そういう

かんかく たいけん りょこう きせい たの ひと
感覚を体験するのも、旅行や帰省の楽しさの一つなのかもしれません。